

沖縄産の藍色の壺

出土地：首里城北殿跡

今回紹介する資料は、首里城北殿跡の発掘調査で出土した鮮やかな藍色の釉薬が特徴的な壺です。割れた部分をよく見ると、材料の土の上から一度白い土をとかしたものをかけたあとに、釉薬を重ねがけしているのが確認できます。その技法や材料の土の特徴から、壺は沖縄産であることがわかります。

器の表面には、梅の木と翼を広げた鳥がダイナミックに描かれています。また、壺の上部には獅子面がついています。よくみると作りが丁寧で、穏やかな表情をしています。獅子は聖獣として西域（西・中央アジア）から中国に伝わったもので、邪気を払う魔除けの文様とされます。さらに底の部分を見ると、何らかの文様または記号のようなものが描かれています。今のところ、この壺と同じものは見つからないため、大変貴重な資料です。

ダイナミックかつ丁寧に装飾された藍色の壺。かつてこの壺を制作した陶工の人柄がひしひしと伝わってくるようです。